

会報

No. 109

令和5(2023)年9月15日

<https://www.library.pref.kyoto.jp/k-lib/council>

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1面

・子どもたちに大人気！京都市図書館の「青い鳥号」
(京都市中央図書館)

2面～3面

・宇治市における電子図書館の取り組み
～学校連携事業について～
(宇治市中央図書館)
・ふくちやま電子図書館について
(福知山市立図書館)

3面～4面

・SNSの活用法について
(京都学・歴史館)
・研修について

平成二十六年三月に策定した「第3次京都市子ども読書活動推進計画」の中で示されている、公共図書館と学校や幼稚園との連携をさらに深めるため、青い鳥号は計画・導入されました。同年十一月に京都市中央図書館が朱雀第三小学校へ



京都市図書館には、行事と本をのせて走る専用の車「青い鳥号」があります。京都市図書館二十館と京都市立芸術大学や京都ライトハウスをつなぐブックメール便や、移動図書館「こじか号」とは別の車で、図書館司書が行う行事と、本や紙芝居などをセットにして京都市内を走っています。

子どもたちに大人気！
京都市図書館の「青い鳥号」
京都市中央図書館 主任司書 加藤 幸子

主に用途は、保育園や幼稚園、小・中・高・総合支援学校や大学へ出向いてのブックトークや読み聞かせです。また、中学生が幼児とのふれあいの一環で読み聞かせを行う家庭科授業での本選びから実演までの講師の派遣、新一年生に図書館の使い方の説明を兼ねたブックトークと読み聞かせを行う「ウェルカム一年生」、学校図書館の蔵書を充実させるため図書委員が行う選書会議などの場面で活躍しています。現在は学校だけでなく、京都府立植物園や「京都市PTAフェスティバル」、地域の方とのふれあいとして区役所や公民館、お寺や高齢者施設、病院など様々な施設での読書に関する活動や図書館のPR活動、地藏盆や地域のお祭りでのブックリサイクルなど様々な形で運用しています。開始から五年間は毎年一〇〇回程度の出動がありましたが、令和二年の新型コロナウイルス感染症流行以降は、図書館の臨時閉館・学校の休業による行事の中止などで出動自体が大幅に減少しました。しかし、昨年の令和四年度は年間五十回程度、今年度は七月現在で既に約三十回の出動依頼があり、少しずつ以前の状態に戻り始めています。

青い鳥号は軽ワゴン車で、後部座席に木製本棚二台を搭載、約二〇〇冊の本を収納できるよう改造されているため、乗車人数は二名です。また、移動図書館こじか号の前身で、昭和二十五年から約十五年間京都市内を走っていた、巡回文

庫自動車「青い鳥号」の名前を引き継いでいます。青い鳥号の予定管理は中央図書館が担っており、市内図書館二十館からアクセス可能な共有ドライブに設定されている運行予定表にて、各館が希望日時の空き状況を確認した上で、中央図書館へ連絡すると予約が完了し、必要であれば担当の専門主事が運転もしています。

図書館の専用車両であることがよくわかるように、車体のイラストを京都市立銅駝美術工芸高校（現京都市立美術工芸高校）の生徒二名がデザインしてくれました。車の側面には本と一緒に幸せを運んでくれる青い鳥たち、後方のハッチバックには知恵の象徴であるふくろうと子どもたちが本に親しんでいる様子が描かれています。外側からはカラフルなイラストが楽しく、またハッチバックやドアを開けて放つて本棚の本を見ても、図書館ならではの車両は子どもたちにも好評です。

図書館の専用車両であることがよくわかるように、車体のイラストを京都市立銅駝美術工芸高校（現京都市立美術工芸高校）の生徒二名がデザインしてくれました。車の側面には本と一緒に幸せを運んでくれる青い鳥たち、後方のハッチバックには知恵の象徴であるふくろうと子どもたちが本に親しんでいる様子が描かれています。外側からはカラフルなイラストが楽しく、またハッチバックやドアを開けて放つて本棚の本を見ても、図書館ならではの車両は子どもたちにも好評です。



図書館の専用車両であることがよくわかるように、車体のイラストを京都市立銅駝美術工芸高校（現京都市立美術工芸高校）の生徒二名がデザインしてくれました。車の側面には本と一緒に幸せを運んでくれる青い鳥たち、後方のハッチバックには知恵の象徴であるふくろうと子どもたちが本に親しんでいる様子が描かれています。外側からはカラフルなイラストが楽しく、またハッチバックやドアを開けて放つて本棚の本を見ても、図書館ならではの車両は子どもたちにも好評です。

図書館の専用車両であることがよくわかるように、車体のイラストを京都市立銅駝美術工芸高校（現京都市立美術工芸高校）の生徒二名がデザインしてくれました。車の側面には本と一緒に幸せを運んでくれる青い鳥たち、後方のハッチバックには知恵の象徴であるふくろうと子どもたちが本に親しんでいる様子が描かれています。外側からはカラフルなイラストが楽しく、またハッチバックやドアを開けて放つて本棚の本を見ても、図書館ならではの車両は子どもたちにも好評です。

図書館の専用車両であることがよくわかるように、車体のイラストを京都市立銅駝美術工芸高校（現京都市立美術工芸高校）の生徒二名がデザインしてくれました。車の側面には本と一緒に幸せを運んでくれる青い鳥たち、後方のハッチバックには知恵の象徴であるふくろうと子どもたちが本に親しんでいる様子が描かれています。外側からはカラフルなイラストが楽しく、またハッチバックやドアを開けて放つて本棚の本を見ても、図書館ならではの車両は子どもたちにも好評です。

図書館の専用車両であることがよくわかるように、車体のイラストを京都市立銅駝美術工芸高校（現京都市立美術工芸高校）の生徒二名がデザインしてくれました。車の側面には本と一緒に幸せを運んでくれる青い鳥たち、後方のハッチバックには知恵の象徴であるふくろうと子どもたちが本に親しんでいる様子が描かれています。外側からはカラフルなイラストが楽しく、またハッチバックやドアを開けて放つて本棚の本を見ても、図書館ならではの車両は子どもたちにも好評です。

京都府立植物園のフェスタなどへ出向いた際には、ドアが開くとすぐに本棚があり絵本などがいっぱい、ということだけでなく子どもたちは目を輝かせ、「好きな本読むよ〜」の声掛けには、ワクワクしながら本を選ぶ姿を見ることができま

す。いつもの図書館とは違う場所で、どうしたらこの場と本を楽しんでもらえるかを考えながら、設営や行事を行うのは体力も必要で大変ですが、来てくれた人たちの笑顔や「面白かった」「また図書館にも行くわ」の一言で、疲れが吹っ飛びます。図書館に足を運ばなくても、図書館を感じてもらえたり、知ってもらえたりすることができるとは大きなツールとして、これからも青い鳥号の活用の幅を広げていきたいです。



宇治市における電子図書館の取り組み 〜学校連携事業について〜

宇治市中央図書館 館長 中田 義人

本市三図書館において電子図書館サービスを開始したのは、令和三年三月二十四日で、京都府内公立図書館では初めての試みでした。

導入の目的は、新型コロナウイルス感染症対策として来館者の密集を回避（分散）するとともに、『宇治市図書館事業計画』に掲げていた「誰もが利用しやすい図書館」を目指して、利用者の利便性の向上を図ることでした。これにより、利用者は、図書館に来館することなく、いつでもどこからでも電子書籍の閲覧・貸出等ができるようになりました。なお、当館のサービスを利用するためには、電子図書館専用IDとパスワードの申し込みが必要です。

電子書籍約五〇〇〇点で開始した本サービスですが、令和三年度末時点での登録点数は五八六九点で、登録者数は二四九〇人、べ貸出点数は一、六一四点であり、登録者数及び貸出点数を増やすことは、喫緊の課題でした。

また、令和四年度にスタートした本市教育委員会の「第3次子どもの読書活動推進計画」では、読書が嫌いな児童・生徒を減少させることを目標に掲げ、基本方針に「子どもが読書に親しむ機会の提

供と環境の整備・充実」などが盛り込まれました。一方、国のGIGAスクール構想に基づき、小中学生には一台ずつタブレット端末が配備されていました。



そこで、その端末等を活用し、学校や家庭等でいつでも電子書籍を読むことができる環境を作ることにより、児童・生徒の読書意欲を喚起するとともに、読書活動や学習活動の推進を図ることを目的として、電子図書館学校連携事業を開始することとしました。

具体的には、宇治市立小学校二十二校の三年生以上約六一〇〇人、中学校十校の全学年約四六〇〇人に、電子図書館の学校連携専用IDカード（利用者ID及びパスワード）を配布するとともに、電子図書館に朝読書や調べ学習などに役立つ

つ小中学生向け電子図書等を整備することになりました。

事業開始するにあたっては、財政当局はもちろんのこと、本市教育委員会事務局担当課と協議を重ね、また、学校にも具体的に行う業務を説明する形で進めていきました。

その甲斐あってか、令和四年度当初予算に導入経費等を計上することができ、同年七月、何とか夏休みが始まる前に学校連携専用IDカードを配布することができました。

また、小中学生向けの電子図書も新たに約一〇〇〇点購入し、青空文庫も含めて登録点数は約一七、五〇〇点と前年度末と比べると約三倍となりました。その他、本選びに迷う子どものために、アクセスした最初の画面が「キッズ&ティーンズ」になるように設定を変更しました。

その結果、七月から八月の二か月間の貸出点数は前年度の二〇四二点から三〇、五八七点と約十五倍となり、そのうち学校連携専用IDカードでの貸し出しが二八、二三三点と九割以上となりました。

令和四年度末実績では、電子書籍点数は、一八、四〇七点、登録者数は、一五、八二四人（うち学校連携分一一、七三〇人）、貸出点数は九七、六三七点（同八四、五八六点）となっています。

学校連携事業を始めたことにより、読書習慣のない小中学生が本に触れたり、家族で図書館を訪れるきっかけを提供できたのではないかと考えます。

今後も、電子書籍を順次購入して登録点数を増やしていく等、電子図書館サービスの充実を努めます。それが、子どもたちの読書意欲をより一層高め、読書習慣の定着につながるのではないかと思っています。



「ふくちやま電子図書館」を開始して、約一年半が経過しました。二〇二二年一月二十日の開始から二〇二三年三月末までの利用状況は、貸出数二四一、六〇五点、閲覧数四九六、五一八点と、TRC（図書館流通センター）の電子図書館を導入した全国二七九館中、人口あたりの年間貸出数、閲覧数ともに一位になりました。（二〇二三年十月時点）
導入から開始当初

コロナ禍で非来館型の新しいサービスとして導入の検討が始まり、財源に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が活用できることで一気に進展しました。

事業者は、①選書ができる②既存の図書館システムとの連携・非連携の両方を扱える③独自資料登録の機能があるTRCと契約しました。

コンテンツは「青空文庫」を含むスターターセット約八千点の他、一般書、児童書（絵本を含む）各五千点を購入し、

コンテンツ数約一万八千点でスタートしました。選書は、図書購入の選書を担当する職員で手分けして当たりました。約七万点の販売リストを元に分類リストを作成、児童書リストを分離し、それぞれ選書冊数を決めました。原則として図書の選書基準に則りながら、図書では対象としていない書き込み式の問題集や音声読み上げ機能付きなど、電子書籍に特長のあるコンテンツを積極的に選びました。提供されているコンテンツは、紙の本と比べるとまだまだ少なく、全体的には出版社や著者が限られるほか、ライセンス販売型のコンテンツでは底本の出版年が古いなど、新刊図書の選書に比べ自由度が少ないことで苦労しました。

GIGAスクール構想により児童・生徒一人一台タブレット端末が配備されており、電子図書館の導入までに市内公立小中学生約六千人にIDとパスワードを付与し、校長会で説明を行い、教員へ利用マニュアルを送付しました。三段池公園には児童科学館と二〇二二年十一月に開設した子育て支援拠点「りとるハピネス」で電子書籍を利用できるように端末を配備しました。

また、電子図書館開始時期にあわせて、市の広報誌で図書館特集号を、図書館報で電子図書館特別号を発行するなど、広報にも力を入れました。電子図書館の利用案内は、サービス開始当初から電話問い合わせやカウンターで対応していました。スマートフォンやタブレット端末で操作しながら説明する必要

性を感じ、広報を兼ねた使い方講座を二〇二二年五月から月二回三か月間開催しました。開催時期が遅かったため、参加は九人と少なかったですが、視覚障害者協会の方も参加されて視覚障害のある方が電子図書館を使えるかの検証も行うことができました。読み上げ機能があるとはいえ、視覚障害のある方が扱うには難しい状況であることが分かりました。
一年半が経過して

電子図書館の利用数が伸びた大きな要因は、前述した小中学校での利用です。特に小学校では、朝読書や自習を中心に、授業での活用が進められています。実際に読んでいくかわからないという意見もあります。小学校の教員からは「朝読書の時間にざわつきがなくなった」との声も聞いています。小学生が利用しやすいように現場の声を取り入れてサイトを改善しています。ライセンスの種類は買取型と期間限定型があり、導入時にも買取型の購入を優先してきましたが、魅力的な内容を保つためには期間限定型も必要になってきます。現在までのおおよその割合は買取型四割、期間限定型六割となっています。期間を待たずに限度回数に達して終了するものも出てきています。来年二〇二四年一月からは二年間の期限切れコンテンツも多数出てくるため、計画的に選書し、児童書を中心に利用回数の多いものは読み放題セットも取り入れて維持していきたいと考えています。

今後は、一般利用の強化と地域資料の公開が課題です。デジタル化の方法や著

作権の問題などがありますが、市刊行物から取り組んでいく計画です。

サービス開始から約一年半が経過して、購入やサイトを新鮮に保つための管理など、電子図書館の運営に、考えていたよりも手がかかることが分かってきました。また、出版事情は徐々に改善されてきたものの、紙の本と比べると圧倒的に出版が少なく、提供されているコンテンツ数や種類が少ないのが現状です。

電子書籍は紙の本を補うものだと思います。電子機器が身近にあるこれからの子どもたちにとっては、紙の本と電子書籍を併用するのが当たり前の時代になるでしょう。読書や図書館利用へつながる重要な選択肢として育っていくことを願います。電子図書館の環境改善に努めたいと思います。



はじめに

京都府立京都学・歴史館のSNS（Twitter(X)・Facebook）は、二〇一九（平成三十一）年四月に始まりました。今日までの約四年間継続して運用を行い、二〇二三（令和五）年七月現在までのフォロワー数は、Twitter(X) 三三〇〇人超、Facebook 五四〇人超となっています。（Instagramは指定管理者「コングレ・日本

管財・丸善雄松堂共同事業体」が管理しています。）

歴史館を身近に感じてもらい、ファンを増やすことを運用目的とし、「京都府立京都学・歴史館ソーシャル・ネットワーク」・Facebook」運用方針」を策定し、ホームページで公開しています。よければそちらもご参照ください。

運用体制

歴史館のアカウントは館内の三つの課(資料課・京都学推進課・企画総務課)で共有しています。各課にSNS担当の職員がおり、課内で決裁した記事を投稿したり、投稿スケジュールの管理・調整を行ったりしています。投稿は、より多くの人に見ていただけるようアクティビティの多い時間帯や、時事を狙ったタイミングで予約投稿しています。

資料課では：

図書や文書を担当する資料課では、講座やイベント、資料紹介コーナーの案内、POPによる資料紹介、歴史館ならではの所蔵資料を紹介するコラム「#京都あれこれ」、レファレンス事例の発信が現在の主な投稿内容です。記事の作成は、担当を定めず、資料課の全職員にSNS担当者から呼びかけています。なかなか全職員に書いてもらうことはできませんが、できるだけ多くの人を巻き込むことが長続きのコツかと思っています。「#歴史館」を付けることと画像を付けること。SNSでは常に膨大な量の情報

京都府立京都学・歴史館 @reksaikkan

簡単な線でごくモフな動物を描いた『鳥獣略画式』。作者は江戸中期の浮世絵師、顔形屋斎(北尾政美)です。イチオシは両手で威嚇するようなキツネと、こちらをじっと見つめるクロワです。いろいろな動物がいるので、あなたの「推し」も見つかるかも！ #キュレーターバトル #イチオシ推し生きもの #歴史館



が流れていき、発信した情報がすぐに表示されなくなってしまう恐れがあります。そこで、少しでも立ち止まって見ていただけでもいい、歴史館のデジタルアーカイブ上の画像や、著作権保護期間を満了している資料を撮影し添付することで、少しでも目をひく記事を心がけています。

取り組み例その一

NHKのTwitter(X)企画「キュレーターバトル」に参加(参加)したときのこと。「キュレーターバトル」は、出されたお題に対して、全国のキュレーター(学芸員)たちがTwitter(X)上で自館が所蔵する「イチオシ」を紹介する企画です。歴史館のライブラリアンチームも参戦してみました。今年度、「#イチ推し生きもの」のお題に対し、当館の『鳥獣略画式』の動物たちを紹介したところ、たいへん好評いただき、六〇〇〇件を超える「いいね」が付きましました。普段、歴史館と接点のない方々の目にも触れ、フォロー数の獲得につながりました。SNSならではの切り口での発信の効果を実感した出来事です。

取り組み例その二

歴史館で受け付けたレファレンス事例は、国立国会図書館のレファレンス協同データベース(以後「レファ協」)に登録しています。新たに登録した事例をレファ協へのリンクをつけて投稿したり、レファ協公式SNSアカウントで歴史館の事例が取り上げられればリツイートしたりしています。実際にSNSを見て、歴史館にレファレンスを依頼した方もいらっしやいました。SNSでの発信により、レファレンス業務の共有のみならず、利用を促せることにも結び付きました。

取り組み例その三

歴史館では、おすすめの資料に手作りのPOPを添えています。SNSでは資料とPOPとを撮影して投稿し、所蔵資料の紹介をしています。その際には、書影について出版者に使用許諾を取り、出版者名のハッシュタグを付けて投稿しています。アップした投稿に出版者がリツイートしてくれることも。歴史館では出版者からご寄贈いただく資料も多く、こうした出版者との繋がりも大切だと考えています。

最後に

SNSは潜在的な利用者層にも広範囲で働きかけることに優れています。引き続き情報発信に力を入れ、歴史館や京都府のファンを全国的にも増やしていきたいと思えます。

令和五年度京図連協研修予定

北部 令和六年二月二日(金)
テーマ「複合施設と図書館」
場所 綾部市図書館
講師 李 明喜氏
(アカデミック・リソース・ガイド株式会社)

中部 令和五年十月〜十一月ごろ
(予定)
テーマ「伝わりやすい広報物等の作り方(予定)」

場所 調整中
講師 調整中

南部 令和五年十二月十三日(水)
テーマ「障がい者サービスと図書再生機の利用方法及び障がい者への接遇について」
場所 府立図書館
講師 高木美智子氏・饗場野枝氏
(京都ライトハウス)

第三十二回京都図書館大会
テーマ「デジタル化と図書館(仮)」
日程 十一月二十日(月)
場所 京都学・歴史館大ホール

II 会報はホームページに掲載II

京都府図書館等連絡協議会のホームページに過去の会報も掲載しています。御利用ください。